

「大学評価担当者集会 2014」に係る実施報告

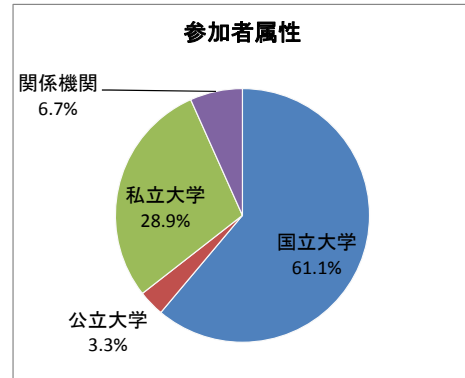
平成 26 年 8 月 28 日（木）～29 日（金）の両日にわたって、大学評価コンソーシアム主催、神戸大学及び大学コンソーシアムひょうご神戸共催による「大学評価担当者集会 2014」を神戸大学六甲台キャンパスにおいて開催しました。

【会場】

- 出光佐三記念六甲台講堂
- 瀧川記念学術交流会館
- 百年記念館（神大会館・留学生センター）

【参加者数】

90 名（参加登録者数：93 名）



国公立大学の教職員、及び民間企業を含む大学関係機関から総勢 90 名にご参加いただき、大学評価及び Institutional Research (IR) に係る内容を中心に、以下の講義及び研修を実施しました。

8月28日（木） 13：30～20：00

◇評価・IR シンポジウム「学習成果を把握するための評価・IR 活動」（13：30～17：10）

神戸大学主催、大学コンソーシアムひょうご神戸及び大学評価コンソーシアム共催でシンポジウムを開催しました。高等教育に係る政策立案に関わっている研究者、日米の大学における実務者からの報告を踏まえ、日本の大学において学習成果を重視した教育を普及・定着させるための展望と課題、その過程で評価・IR 担当者が担える役割等について、パネリスト間のみならずフロアからの質問も含めて活発な議論が行われました。

■大学評価コンソーシアム総会（17：20～17：40） 参加者数：44名

シンポジウム終了後は、「大学評価コンソーシアム総会」を開催し、まず過去1年間の活動、幹事会及び運営等について代表幹事から報告、また、監査人から監査報告を行いました。次に幹事の交代、代表幹事及び監査人の選出、会則の修正、並びに今後1年間の活動予定等について会員みなさんにお諮りし、ご了承いただきました。平成26年8月29日以降の大学評価コンソーシアム運営担当会員は以下のとおりです。

幹事（9名）

- 浅野 茂（大学評価・学位授与機構 研究開発部 准教授）
- 大野 賢一（鳥取大学 大学評価室 准教授）
- 小林 裕美（徳島大学 国際課 課長）
- ◎小湊 卓夫（九州大学 基幹教育院 准教授）
- 佐藤 仁（福岡大学 人文学部 准教授）

- 嶋田 敏行（茨城大学 大学戦略・IR 室 助教）
- 関 隆宏（新潟大学 企画戦略本部評価センター 准教授）
- 難波 輝吉（名城大学 学術研究支援センター 課長）
- 藤原 将人（立命館大学 教学部 学事課 課長補佐）
- ◎は代表幹事、○は副代表幹事。

監査人（2名）

- 浅野 昭人（立命館大学 学生部 次長）
- 大川 一毅（岩手大学 評価室 准教授）

◇情報交換会（18：00～20：00）

総会終了後は、55 名の方の参加を得て情報交換会を催しました。それぞれの業務に係る情報交換、シンポジウムや分科会の話等、終始会話が途切れることなく、また、会場の随所で名刺交換が行われており、新たなネットワーク作りの場としても機能しました。

8月29日（金） 9：30～16：00

◇全体会（9：30～9：50）

大学評価担当者集会 2014 の開催にあたり、土橋慶章（開催校代表）及び小湊卓夫（大学評価コンソーシアム代表幹事）から挨拶があり、浅野茂（大学評価コンソーシアム副代表幹事）が本集会の趣旨、プログラム等について説明を行いました。



○第一分科会「大学の改善に活かす評価・IR」 参加者数：45 名

担当：嶋田敏行（茨城大学）、浅野昭人（立命館大学）、小林裕美（徳島大学）、小湊卓夫（九州大学）、佐藤仁（福岡大学）、末次剛健志（佐賀大学）、土橋慶章（神戸大学）、長崎英助（神戸大学）、難波輝吉（名城大学）、藤井都百（名古屋大学）、藤原将人（立命館大学）

大学評価あるいは IR 業務に一定期間携わっている方を対象に、大学の諸活動の改善を促進するための評価・IR 業務のあり方についての講義と討論を行いました。

具体的には、午前には「我が国に於ける評価と IR の現状と課題」、「評価作業を IR 活動へ進めるには」及び「IR から IE へ？」と題した講義と質疑応答を行いました。午後は、評価業務・IR 業務自体をどのように改善すれば、大学がより進むべき方向に向かいやすいのか、もしくは、評価業務・IR 業務という現状認識・現状分析の中で見えてきた学内の課題をどのように改善すれば良い

のか、ということについて、類似の課題を抱える担当者から成る9つのグループで討議を行っていただきました。その結果をポスターにまとめ、各班が作成したポスターの概要及び検討結果を発表していただき、課題等を皆で共有しました。



○第二分科会「初めて評価を担当される方へ」 参加者数：30名

担当：関隆宏（新潟大学）、大野賢一（鳥取大学）

大学評価の実務経験がほとんど無い初心者を対象に、「評価とは何か」という基本的な観点の習得を目標に、評価報告書の事例を用いて、参加者が担当している業務の意味や意義を理解するための講義及び演習を行いました。

具体的には、第一分科会とともに「我が国に於ける評価とIRの現状と課題」の講義を行い、その後、会場を変えて、大学評価の観点や評価書を作成する際のポイントについて説明しました。演習では、認証評価（一定の質や量に達しているかどうかの評価）や国立大学法人評価（目標（計画）の進捗度合いの評価）をテーマに、6つの班に分かれて、事例の問題点・課題を抽出、改善点・解決策を検討し、結果をまとめたポスターセッションを行い、成果を共有しました。



○第三分科会「自己評価能力を高めるための目的・計画と指標の作り方」 参加者数：7名

担当：田中弥生（大学評価・学位授与機構）、渋井進（鹿児島大学）、西村雄二郎（大阪大学）、山崎その（京都外国語大学）

大学評価及び企画立案業務に一定期間従事されている方を対象に、目標や計画を適切に立てるための基本的な考え方についての講義及び実践的な課題に基づいた演習を行いました。

具体的には、適切な評価が行えるように整理するための手法“Evaluability Assessment”（内

部質保証力向上支援ツール)のステップ1「課題・問題の分析」、ステップ2「目的の整理、計画の作り方」について説明しました。その後、2つの班に分かれて、新たに作成した演習課題「キャリア支援」を題材に演習を行い、作成した目的系図の発表及び討議により理解を深めました。



○第四分科会「評価・IR部署の業務整理と改善支援」 参加者数：8名

担当：本田寛輔（メイン州立大学アーガスタ校）、浅野茂（大学評価・学位授与機構）

評価・IR部署の長、あるいは当該部署の業務の全体像を把握している方を対象に、評価・IR業務を、その「目的」と「対処」の観点から整理し、評価・IR業務の高度化を図るための講義及び討議を行いました。

具体的には、午前は第一分科会とともに講義を行い、午後は会場を変えて、参加者の大学の評価・IR業務を「説明責任のための通常業務」、「説明責任のための臨時業務」、「改善支援のための通常業務」、「改善支援のための臨時業務」に整理し、さらに、学外への説明責任のために作成したデータを、どのようにして学内の改善支援に転換させていくかについて討議しました。



(文責：土橋（神戸大学）)